

2026年6月19日
一般社団法人
グリーンコープ共同体
第九期
定時社員総会

2027カーボンニュートラル達成や びん牛乳事業の実現に向けて、 グリーンコープ運動を 力強く進めていきましょう



2026年6月19日、一般社団法人グリーンコープ共同体第九期定時社員総会が、福岡市の会場とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。審議の結果、すべての議案が可決・承認されました。

総会では、「2027カーボンニュートラル」と「産直びん牛乳事業」が大きく前進していることや、社会福祉法人グリーンコープの組織再編について報告されました。また、世界から戦火が熄むことを願い、できることに取り組んでいくことを、特別決議しました。

2026年度も、未来への飛躍に向けて、グリーンコープ運動を組合員、ワーカーズ、職員が一丸となって前進させていきます。

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

2026 8 月

■発行：一般社団法人グリーンコープ共同体理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング4階
TEL092(481)7923
FAX092(481)7876
<https://www.greencoop.or.jp/>

Contents

一般社団法人
グリーンコープ共同体
第九期 定時社員総会報告
・基調総括
・特別決議
・組合員活動報告 1~7
・〔特別報告〕
社会福祉法人グリーンコープの
組織再編に向けて
・活動方針

グリーンコープのイチオシ!
産直野菜deまるっとキューブ 8

連合会総会報告は連合会発行の機関紙(別冊)にて、共済連合会総会報告は、グリーンコープ共済連のホームページにて案内しています。

めグリーンコープ |

グリーンコープは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

2026年6月の
組合員数 (6/20現在)

432527人

互恵のためのアジア民衆基金
2026年6月に
組合員の利用によってたまったのは
536,279円
2009年4月からの累計は117,117,341円

共同体代表理事挨拶

生命(いのち)が何よりも大切で
あることを伝えていきましょう



グリーンコープ共同体
代表理事
日高 容子さん

世界各地に目を向けると、ロシア、イスラエルによる戦争は未だに終わりが見えず、さらに今年、中東で新たな争いも始まりました。多くの市民が生命(いのち)を奪われ傷つけられています。そして子どもたちまでもが傷つけられていることに憤りを感じてやみません。私たちグリーンコープは「不戦」を願い、何よりも生命(いのち)が大切にされることを次の世代へ伝えていきます。持続可能なくらしと平和な社会を継承することは、私たちグリーンコープの大きな役割だと考えます。人と人とのつながりが社会を変えていくことになる、と信じ、本総会では、「特別決議」を皆さんと確認したいと思います。

「2027カーボンニュートラル」の取り組みは、気候変動、気候危機に対し組合員一人ひとりが自分に引き寄せ、共に財源を拠出することでの参加を呼びかけ、力強く進めています。2027年の実現を掲げ、グリーンコープの連帯の力で、さらに力強く進めていきたいと考えます。

2025年3月には自社工場である「グリーンコープミルク」で「びん牛乳」の製造がスタートしました。母牛の飼料の生産拠点である「グリーンコープTMRセンター」も順調に稼働し、下郷農協の酪農生産者とグリーンコープが連帯し進めてきた900頭規模の牧場「耶馬溪ファーム」が、いよいよ7月1日に開場します。待ち望んだ耶馬溪ファームの開場式を迎えることがとてもうれしく、関係者の皆様には感謝の気持ちでいっぱい입니다。産直びん牛乳は、

来賓挨拶



グリーンクラブ
会長
松下 剛さん

グリーンクラブでは、組合員・ワーカーズ・職員の皆さんと顔の見える関係を深め、力を合わせ、安心・安全な食べものを届けています。

今年は、中東で戦争が始まり、物価がさらに上がっています。商品を供給する私たちメーカーも、原料の調達など思うようにならない状況も起きています。そのような中、グリーンコープの産

組合員にとって「食べもの運動」の象徴です。待ちに待った、組合員の「夢」「願い」をカタチにした真の「産直びん牛乳」の誕生も間近となりました。

また、グリーンコープは、ワーカーズ型生協へとさらに前進を続けています。グリーンコープ・ワーカーズ・コレクティブ連合会による、ワーカーズ

ーズの組織強化、躍進が進んでいることを実感しています。

「みどりの地球をみどりのままで、子どもたちに手渡したい」と願い、これからも、組合員、ワーカーズ、職員事務局が互いの立場を尊重し、理解し、協力して、グリーンコープ運動を進め、仲間を増やして頑張っていきます。

直びん牛乳事業の一つ「耶馬溪ファーム」が7月1日に開場されるとい、うれしいお話も届いています。これから、おいしい産直びん牛乳が飲めるようになることは、本当にすごいことだと思います。

先が見えない社会状況ですが、グリーンクラブは組合員の皆さんの要望に応えられるよう、商品の安心・安全はもちろん、安定した供給にも力を尽くします。グリーンコープの伴走者として、懸命に今を生き、共に明るい未来をめざします。

※グリーンコープ納入業者の会



2026年7月、耶馬溪ファームが大分県中津市耶馬溪町で開場。



耶馬溪ファームの乳牛に与える飼料を作るグリーンコープTMRセンター。



生乳の殺菌から、びん詰め・出荷・回収したびんの洗浄まで行うグリーンコープミルク。



各会員生協は、地域の人たちにグリーンコープの取り組みや安心・安全な食べものをアピールするために、まつりを開催。写真は約800人の来場者で賑わったグリーンコープ生協まつりのまつりの様子。

2025年度末(2026年3月末)現在の組合員の状況	
組合員役員・委員(活動組合員)	2,324人
組合員事務局員・スタッフ	336人
業務系ワーカー(共同購入(配送)・店舗など)	1,925人
福祉関係ワーカー(高齢者福祉・子育てなど)	2,133人
小計	6,718人
総組合員数	435,085人

総組合員数435,085人のうち、65人に1人の割合で、組合員役員やワーカーとしてグリーンコープ運動に関係していることとなります。

共同体第九期定時社員総会議案 採択の結果			
代議員数222人(議長と欠席者を除く)	賛成	反対	保留
第一号議案 2025年度活動報告・決算承認の件	多数	1	4
第二号議案 2026年度活動方針決定の件	多数	1	1
第三号議案 2026年度事業計画・予算決定の件	多数	1	2
第四号議案 定款変更の件	3分の2以上	1	1
第五号議案 役員選任の件	多数	2	1
第六号議案 議案決議効力発生の件	多数	0	1

一般社団法人グリーンコープ共同体
第九期定時社員総会
2025年度決算報告
(貸借対照表・損益計算書)は
ホームページに掲載しています。

貸借
対照表は
こちらから

損益
計算書は
こちらから

2026年6月19日
一般社団法人
グリーンコープ共同体
第九期
定時社員総会
第一号議案
2025年度活動報告・決算承認の件



グリーンコープ共同体
専務理事
西岡 寛さん

基調総括 (要旨)

グリーンコープの未来に向けて 一つひとつのビジョンを実現していくために 組合員・ワーカーズ・職員が一丸となり前進しましょう

2026年度は、「2027カーボンニュートラル」と産直びん牛乳事業の成功に向けて、一歩を進めることで事業を強化し、投下した資本の回収に向かう二年となります。

2025年度は、「2027カーボンニュートラル」「産直びん牛乳事業」へ資本を投下し、組合員検討を深めることで、それぞれ成功に向けてビジョンを形づくることができました。2026年度は、そのビジョンを実現していくために、戦略的な準備を進め、事業強化につなげ、投下した資本の回収に向かう一年と位置付けます。

「2027カーボンニュートラル」について、残り2年間で達成するロードマップを明確に定め、オールグリーンコープで共有します。一人ひとりがその主体となって、生命、

「2027カーボンニュートラル」の実現に向けて、取り組みは最終段階に到達します。

これまでの取り組みを通じて、使用する電力をCO₂を排出しない「グリーンコープでんき」に切り替え、事業で使用する車両の46%をEV車へと切り替え、ドライアイス使用量を取り組み開始前に比べ42.6%削減す

「びん牛乳を継続したい。そのためにびん牛乳工場をつくる。そうであれば理想の酪農生産者の産直をつくる。酪農を成功させるために飼料(TMRセンター)をつくる。」という事業は、成功への道を歩みだし、と総括できます。

産直びん牛乳の利用普及に戦略的に取り組みます。

2027年1月頃を予定している、遺伝子操作していない飼料を与えた母牛の生乳による産直ノンホモ牛乳の登場に向けて、利用の拡大を戦略的かつ周到に準備し、2028年2月の完全供給までに年間700万本の供給を目指します。

組合員拡大を強化します。

2025年度の組合員拡大は前年比109%でしたが、2026年度は低迷しており、コロナ禍における宅配需要が高まった期間の実績を超えることはできていません。

この状況を突破するためにも、グリーンコープの根幹でありこれまでの歩みの集大成とも言える、「2027カーボンニュートラル」「産直びん牛乳事業」を推進力にしていくことが欠かせません。「2027カーボンニュ

利用拡大を強化します。

2026年2月、GCCアプリにスタンプラリー機能を追加し、全ての組合員を対象にGCCアプリ利用登録キャンペーンに取り組みしました。また、新規組合員を対象に、商品利用スタンプラリーを実施しています。このスタンプラリー機能を活用し、おすすめ商品の利用

たすけあい共済の取り組みを強化します。

促進、注文回数の増加にも取り組んでいきたいと考えています。

2026年カタログGREEN1号に向けて利用休止者の再開に取り組みしたところ、オールグリーンコープで2,537人の組合員が利用を再開しました。登録組合員が減少している中、配布を増加している中、グリーンコープでは、

2013年度比46%削減¹に対し、グリーンコープの「2027カーボンニュートラル」は先駆的な取り組みであり、素晴らしい成果につながっています。

「2027カーボンニュートラル」は社会的に広く注目を集め、TVや新聞に加え、Web、YouTube、経済誌や専門誌などへの掲載、サステナビリティ戦略に関する講演依頼が来るなど、以前とは異なる社会との接点ができ、報道を目にした企業から様々な協業の提案を受け、新たな事業の開発、実証実験に共に取り組むことにもつながっています。

今後、EV車導入計画を精査し、冬場のドライアイス使用量を見直すなど、極限までCO₂排出量を削減しますが、それでも、2027年度末のCO₂排出量は年間約600トンになる見通しです。最終的に削減できないCO₂排出量を確定し、その分に相当するCO₂吸収の取り組みを行うことで「2027カーボンニュートラル」の達成に向かいます。

CO₂吸収の取り組みとしては、生産者や取引先と連携し、カーボンス

「2025年度」「2027カーボンニュートラル」達成のために、EV車導入に関わる費用として5億4,299万円使用し、また、組合員のポコ(国産の食べもの利用と、リユース・リサイクルに

やすことにつながり、8週間の取り組みを通じて、延べ6,967人の注文、2,083万5,564円の供給となりました。

さらにカタログ1号の注文書回収アプリに向けて、文書書回収アプリに

ワーカーズの位置づけを高め、活力が発揮されるように、ワーカーズ常務理事会を強化します。

各会員生協においてワーカーズ常勤会が組織されていく中で、各会員生協の枠を横断した組織として2025年5月にワーカーズ常務理事会が発足しました。ワーカーズ常務理事会は、オールグリーンコープの政策決定

たすけあい共済の取り組みを強化します。

全国的な状況として、子ども共済へ「お誕生前申し込み」が増加し、それに伴って家族の共済増加と生協への同時加入が増加しています。

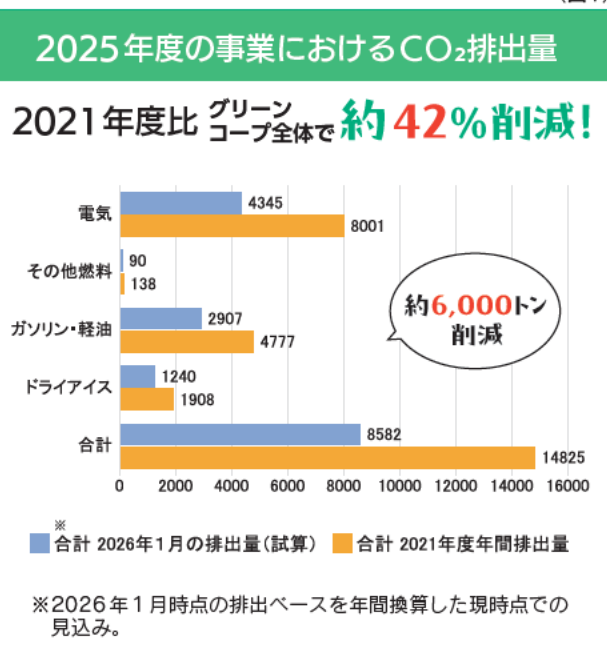
離乳食や木育に取

合員が日を追うことに増えています。引き続き掲出の呼びかけをしていきます。

EV車の使用済みバッテリーは「バッテリーごみ」になり、廃棄時に環境汚染(有害物質・発火リスク)を引き起こす可能性があります。解決策として、使用済みバッテリーを蓄電池として再利用すること

「2027カーボンニュートラル」の財源として掲出。また、組合員のリユースびんの利用1本につき5円、モラルバック利用1パックにつき5円、リサイクルされるトレイなど1kgにつき円をグリーンコープが拠出。

※4 趣旨に賛同した組合員が商品代金の1% (上限500円/月) を拠出する取り組み、カンパに寄せられた金額の合計。



り組むグリーンコープの子育て支援の一環としても、たすけあい共済の推進に

消費者と生産者・都市と農村の交流を通じて地域を再生していくことに取り組みます。

大分県中津市の下郷の地における循環型酪農事業がここまで到達したことを受け、2023年の「三者協定」に規定されている「下郷の夢1委員会」を、下郷農業協同組合、耶馬溪酪農組合と共

このような地域が広く社会に開かれることを目指し、旅行事業や観光事業に加え、農村体験やワーケーションなど滞在型の企画や、若い世代の移住など、つなげること、消費者と生産者、都市と農村の交流を豊かに展開していきます。

※5 グリーンコープ共同体、下郷農業協同組合、耶馬溪酪農組合の三者が締結した協定。

以上

特別決議

グリーンコープ共同体第九期定時社員総会

私たちは、世界の戦火が熄むことを願います。
そして、そのために私たちが出来ることを
考え、話しあい、取り組んでいきます。

4年前に始まったロシアによるウクライナへの戦争が終わりをみせず、3年前、イスラエルとパレスチナの地にふたたび戦争が起こり、それはとりわけパレスチナの多くの子どもと人々の生命と財産を奪った上で、昨年10月からうじて停戦をみたものの、なおつづく停戦違反によって人命が失われていくなか、今年2月アメリカとイスラエルによるイランへの戦争が始まりました。それは中東の地に広がってまいります。

そして、これらは、真の解決に向かうことも、喫緊の終結も見とおせていません。

人の生活も生命も数では表わしきれないものですが、また、推計によるとされるものもありますが、現在わかっているものとして、次の報告があります。

○ウクライナでの戦争によって、被害されたウクライナ民間人は1万5000人。ウクライナ国内外への避難者960万人。ロシア・ウクライナの両軍兵士の死傷者数は200万人にのぼる。

○ハマスによるイスラエルへの攻撃で殺害されたイスラエル民間人1200人、人質となった人251人。イスラエルによるパレスチナ人のガザへの侵攻で、こども2万人を含め7万2000人が殺害され、その大半は民間人である。これ以外に、ガザという都市の大半が破

壊され、生活の基礎となる住まい・上下水道・医療等の崩壊による関連死が数万人。

○イランでの戦争によって、イラン内で、こども・民間人2000人が含まれる3000人以上の殺害。中東全域では、イスラエルによるレバノンへの攻撃をはじめ8000人にのぼる。

こどもたちに、市民に、兵士にも、これらすべての1人ひとりに、それぞれの人生と生活があり、これからの人生と生活もきつとあったのです。戦争はそれらを問答無用に奪っていきます。

私たち、グリーンコープは、生命そのものに価値があると考え、戦争で人を殺し、殺されることを否定し、不戦を願い、共生と平和を一つのものとして、希求しています。それを、私たちの日常に据えていこう、それが、私たちが生きる世界の根幹につながるようにしよう、と取り組んできました。

そんな私たち、グリーンコープは、世界のこうした戦火事態にあつて、どう考え、何が出来るかを、5月20日の共同理事会で話しあいました。1つ、ウクライナ・パレスチナ・イラン（中東）の現地からの報告をお聴きする場を設けよう、2つ、組合員にむけて現地のこどもたちと人々を支援する募金を呼びかけよう（いただいた募金は3つの現地に責任をもって届けよう）、3つ、本日の総会でこの意思を確かめあおうとなりました。また、各単協・地域で、

組合員といっしょに考え、話しあい、やれることをしようとなりました。

そうした私たち、グリーンコープの歩みは、同じ意思をもつ人たち・指導者たち・為政者たちともつながっていきます。そして、今の戦火の終結と、戦争の真の解決に結びついていきます。真の解決は、戦争を起こし、取り引きをして終わらせることではありません。共生という人の営みが築いていく平和なのだと思ひます。

その意味で、あらためて、私たちの先輩が31年前に採択した『グリーンコープの（第一次）不戦決議―不戦はグリーンコープの原点です』を読みなおしたいと思ひます。皆さんもぜひご参照ください。共生という日常がもつ大切さを伝えてくれています。

なお、私たちが見据えておかねばならぬ事実として、日本も兵器を輸出する国となったこと、「2025年の世界軍費は前年の2.9%増460兆円、欧州で福祉（医療・教育・国民サービス）縮小論に国民反発、日本は前年の9.7%増9.9兆円」（4月28日日本経済新聞）といったことがあります。世界と日本の経済にとつても本場に必要なのは、軍事費ではない、と私たちは考えます。

以上、特別決議します。

2026年6月19日
グリーンコープ共同体第九期定時社員総会
参加者一同

戦議不決

1995年のグリーンコープ事業連合第三期通常総会において、「戦後50周年を迎えるに際して」として特別決議しました。

不戦はグリーンコープの原点です

戦後50周年を迎えるに際し、私たちはまず過去の戦争の性格に関し、私たち自身と関係した各国およびその国民に対する責任の名において、それは間違いなく帝国主義戦争であり、植民地争奪戦争であつたことを確認しておきたいと思ひます。確かに、この戦争の結果、多くの植民地がその独立を獲得しました。しかし、日本が過去の戦争において、植民地の解放を意図した事実は本質的にありません。日本は、まず韓半島を、次に中国東北部（満州）を植民地化し、さらに多くの植民地の獲得を目指して中国に、東南アジア、南洋諸島へと侵略を重ね、英・米・仏などの列強と侵略を受けた各国人民の抵抗の前に、敗北したのです。私たちは、この事実を率直に認め、なによりも韓国・朝鮮と中国の国家と国民に、そして日本の侵略に苦しんだすべての国家と国民に、心からお詫びしたいと思ひます。

①戦争は最大の暴力である。兵器と軍隊は最大の暴力装置である。私たちはこれを否定する。

②私たちは、平和と生命そのものには価値がない、平和と生命を賭して何を守るかに価値がある、という考えに、平和と生命そのものに価値がある、だから私たちは平和と生命を賭してでも平和と生命を守ろうとするだろう、しかし、むしろそれ以上に、私たちが平和と生命を賭してでも平和と生命を守らねばならない状況そのものを否定する、守る行為さえ肯定はしない、という考えを対置する。

③私たちは、平和は部分的に腐る、という現実には耐える。

④私たちは、法が暴力から人間を守る、しかし次の次元では法そのものが人間にたいする暴力に転化する、悪循環である、という現実を見する。

⑤私たちは、暴力の根源を人間の本性に還元しない。

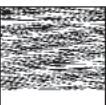
⑥私たちは、暴力の根源は、完全な情報公開、徹底的な話し合い、機敏で責任ある対応、この三つの構造的な欠落にあると考える。

⑦私たちは今、平和と生命は生協運動にこそ不可欠であると思う。生協運動の自主性も地域性も戦争という最大の国家性と職業性に消される。

最後に私たちは、戦争と暴力を日常的に無化していくために、私たち自身の中にある「人としての自己表現、特にその自己中心性（これがいつでも支配、圧政、侵略、特に正義に化ける）」その意味で戦争と暴力の本質的な原因―と日常的に、根気よく格闘していかなければならないことを、私たちの判断として確認しておきたいと思ひます。なぜなら、こうした判断と格闘が多重で頑丈で信頼に値する分だけ、戦争と暴力の可能性は確実に私たちから遠ざかるはずだからです。

不戦はグリーンコープの原点です。

不戦決議の解釈をホームページでご覧になれます。



2026年6月19日
一般社団法人
グリーンコープ共同体
第九期
定時社員総会
第一号議案
2025年度活動報告・決算承認の件

共同体組織委員会

「せっけん」「環境」「平和」「アジアとの連携」の取り組みを共有し、活動に活かしました

各会員生協の取り組みを支えていくことを目指し、学習会などを行い、多岐にわたる運動課題を深めました。

せっけんの良さを伝え、利用普及につなげました

「せっけん学習会」では、化学物質過敏症や、有害

共同体福祉委員会

グリーンコープの福祉を学び、さらなる活動の充実を目指します

グリーンコープの福祉について理解を深めるために学習会や視察研修を充実させ、各会員生協の報告や意見交換、情報共有を丁寧に行いました。

学習会を開催し、各会員生協の取り組みに活かしました

2025年度は内部学習会を9回行い、グリーンコープの福祉の取り組みについて、様々な講師から話を聞きました。社会福祉法人グリーンコープ（以下、社福顧

掲載してせっけんの商品アピールするなど、多くの組合員にせっけんを使ってもらえるように取り組みました。

環境問題や脱原発問題について学び、会員生協の活動を支援しました

「P F A S 学習会」では有機フッ素化合物による環境汚染や健康への影響について学びました。

「牛乳3事業所とB M プラント視察」では、耶馬溪ファームで使用する電気を自家発電するため



グリーン電力出資金を呼びかけるチラシは、様々な場面で活用されています。

の太陽光発電施設への理解を深めました。視察で感じたことをもとに、発電施設設置に向けグリーン電力出資金を呼びかけるチラシを検討しました。

「脱原発大集会」を「グリーンコープの託送料金訴訟を支える会」と共催し、東京電力福島第一原発の事故後の現状や被災地の課題について学びました。また、パネルディスカッションを行い、博多駅前で「脱原発アピール行動」も実施しました。

原発のない社会を願う思いを参加者で共有し、行動につなげることができました。

「平和の思いを大切にしながら、平和について学び、考えました」

元イスラエル兵士の方



脱原発アピール行動では、道行く人に脱原発を訴え、脱原発リーフレットなどを手渡しました。

南と北の共生や民衆交流について学びました

「Fromネグロス学習会」では、ネグロスとの交流の歴史やさとうきびやバナナの生産者の暮らし、気候変動の影響などについて学び、民衆交流が人と人とのつながりによって支えられていることを確認しました。

「青少年ネグロス体験ツアー」の再開に向けた下見ツアーの報告では、現地の人々との交流や豊かな自然に触れた感想が共有され、ツアー再開への期待が高まりました。

2026年度も一つひとつの運動課題に向き合い、仲間と共に学び合いながら楽しく活動を進めていきます。

若者支援が組合員も参加しやすい運動になったことは、グリーンコープらしいと感じました。

グリーンコープの「災害支援」について学び、組合員力が活かされた災害支援のすばらしさを共有しました。

「ファイバースイック



福祉ワーカーによる学習会では、グリーンコープの介護施設で取り入れている「ふまねっ

「福祉拡大学習会」では、不登校を経験した方とその母親を講師に迎え、子どもと親それぞれの視点から話を聞くことができた貴重な機会となりました。講演会にはオンラインを含め272人の参加

「福祉拡大学習会」では、不登校を経験した方とその母親を講師に迎え、子どもと親それぞれの視点から話を聞くことができた貴重な機会となりました。講演会にはオンラインを含め272人の参加

「福祉拡大学習会」では、不登校を経験した方とその母親を講師に迎え、子どもと親それぞれの視点から話を聞くことができた貴重な機会となりました。講演会にはオンラインを含め272人の参加

「福祉拡大学習会」では、不登校を経験した方とその母親を講師に迎え、子どもと親それぞれの視点から話を聞くことができた貴重な機会となりました。講演会にはオンラインを含め272人の参加

「福祉拡大学習会」では、不登校を経験した方とその母親を講師に迎え、子どもと親それぞれの視点から話を聞くことができた貴重な機会となりました。講演会にはオンラインを含め272人の参加



ファイバースイックルセンターで仕分け作業を見学し、汚れがあると廃棄になることを知りました。

「ファイバースイックルセンターで仕分け作業を見学し、汚れがあると廃棄になることを知りました。」

「ファイバースイックルセンターで仕分け作業を見学し、汚れがあると廃棄になることを知りました。」

「ファイバースイックルセンターで仕分け作業を見学し、汚れがあると廃棄になることを知りました。」

「ファイバースイックルセンターで仕分け作業を見学し、汚れがあると廃棄になることを知りました。」

2026年度より共同体福祉委員会は、社福の福祉委員会になりました。組合員の声を届け、社福のワーカーズと新しい関係をつくっていききたいと思っています。

2026年度より共同体福祉委員会は、社福の福祉委員会になりました。組合員の声を届け、社福のワーカーズと新しい関係をつくっていききたいと思っています。

2026年度より共同体福祉委員会は、社福の福祉委員会になりました。組合員の声を届け、社福のワーカーズと新しい関係をつくっていききたいと思っています。

2026年度より共同体福祉委員会は、社福の福祉委員会になりました。組合員の声を届け、社福のワーカーズと新しい関係をつくっていききたいと思っています。

2026年度より共同体福祉委員会は、社福の福祉委員会になりました。組合員の声を届け、社福のワーカーズと新しい関係をつくっていききたいと思っています。

残留放射能検査結果 ⑬③

2026年6月に308品目の検査をしました（一部6月以前の測定分を含む）。以下の商品からグリーンコープのアクション基準（10ベクレル/kg）以下の残留放射能が検出されました。

商品名	検出結果（ベクレル/kg）
もっちりいも	セシウム-137 3.93

最新の放射能検査結果は、ホームページ「放射能検査の取り組み」でご覧ください。
<https://www.greencoop.or.jp/radiation/>



カタログGREEN 51・52号で受け付けた
パレスチナ・ガザ地区緊急支援募金
へのご協力ありがとうございました

合計 4,086,100 円

寄せられた支援金は、関係団体と一緒に、支援・復旧活動に役立てていきます。

投稿募集中

掲載分には**グリーン券500円分**プレゼント！
（グリーンコープ商品の購入に利用可）

お題

①BabyGreen(離乳食)を利用した感想、エピソードなど
(商品名を一つ明記してください)

②私の好きなグリーンコープ商品

③うちの家族

応募方法

220字以内(①で写真有の場合は150文字)
①の写真はjpeg、1.5MB以内。プリントも可。
住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記してください。

※個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。原稿や写真はお返しできません。「共生の時代」はグリーンコープのホームページでも公開します。ご了承ください。

郵送 〒812-8561 福岡市博多区博多駅前1丁目5-1
博多大博通ビルディング4F
グリーンコープ「共生の時代」編集部

FAX 092-481-7876

メール rikoho@greencoop.or.jp

原発のない未来をつくろう (一社)グリーンコープでんき

ひろがれ!私たちの発電所

2026年5月の売電量

神在太陽光発電所 90,070kWh 定格出力1,057kW (309世帯相当)	若宮物流センター太陽光発電所 6,616kWh 定格出力47kW (14世帯相当)
平池水上太陽光発電所 156,449kWh 定格出力1,260kW (368世帯相当)	広島物流センター太陽光発電所 6,059kWh 定格出力47kW (14世帯相当)
深年太陽光発電所 93,484kWh 定格出力1,550kW (453世帯相当)	グリーンコープやまぐち生協西部地域本部太陽光発電所 6,464kWh 定格出力54kW (16世帯相当)
*オンサイトPPA太陽光発電所 62,802kWh 定格出力795kW (232世帯相当)	グリーン未来ソーラー 21,560kWh 定格出力376kW (110世帯相当)

※グリーンコープ関連の事業所屋上に設置した太陽光発電設備で発電した電気を、送配電網を過すずに直接その施設で利用しています。

組合員の出資金で原発フリーの電気をつくります
「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いを、私たちの力で実現させましょう。

グリーンコープ・グリーン電力出資金
10,630人 1,089,021,000円 (2026年6月26日現在)



特別報告

社会福祉法人グリーンコープの
組織再編に向けて

社会福祉法人グリーンコープ 専務理事 片岡 宏明さん

今、止まらない物価上昇で生活格差が広がり、困窮する人が増えています。子どもや若者を取り巻く環境も一層厳しくなっています。そのような中で、社会福祉法人グリーンコープ（以下、社福）が地域社会から求められている役割は大きくなっています。

しかし、今、社福では行政の委託事業や介護保険事業などの制度事業を担うことで精一杯の状態です。今のままでは地域が必要とすることに答えきれいとは言えません。

組合員や地域社会の期待に応えるために、社福では、組織強化に向けた検討を進めています。

組織再編に向けた検討
を開始する
理由について

としたことが、地域福祉に取り組みきつかけとなりました。

2003年に社福を設立し、20年以上の実践を積み歩んできましたが、現在の福祉事業を振り返ると、二つの課題が見えてきました。

一つは、委託事業や介護保険事業などの制度事業を担ったことで、介護事業や生活困窮者自立支援事業へと制度に沿って事業を大きく力強く推進

してきましたが、その反面、専門的な福祉事業となり、素人の助け合いという最初の理念から遠ざかっていることです。

もう一つは、住民同士、市民同士、組合員同士で助け合おうという当初の理念が、制度事業を担うことで専門的な福祉事業になり、組合員や地域から離れてしまっている面があることです。

以上の理由から、共同体代表理事や社福理事長をはじめ、グリーンコープの福祉事業に関わるメンバーの代表が「社会福祉法人グリーンコープあり方検討会」を設置し、組織再編に向けた検討を開始しています。

社福の生い立ちを振り返り、到達点と課題を検討

組織再編に向けた検討を開始するにあたり、社福の立ち上げ時の検討に責任者として参加し、現在もグリーンコープに思いを寄せ関わり続けている方々から証言をいただき、社福がどのように構想され、設立されたのかを振り返りました。

組合員の証言より

社福を設立したことで、グリーンコープの福祉の一員でしかなかったワーカーが、名実ともに主体となり、権限と責任を手にする覚悟を感じました。思いと行動力で頑張ってきた個々のワーカーの待遇面も、自分たちで決めることにより改善が見込めると思いました。

自分たちの手に権限を取り返す、そして発生する責任も引き受ける覚悟をワーカーズの皆さんから感じました。

この担い手の方々がさらに柔軟に手をつなぐことで、深刻化する社会の問題解決に切り込んでいけるのではないかと思います。

在宅福祉ワーカーズの証言より

生活応援という形でスタートした地域福祉でしたが、社会的認知度はなく、当時はお金も力もありませんでした。生協という後ろ盾がなく、2000年にスタートした介護保険に加入しなければ、地域に必要とされるサービスさえ継続できなくなるかもしれないという状況でした。法人格を取得して社福を設立し、生協とワーカーズの共同経営になりました。社福の設立は、自分たちで自分たちのことを即時に決められる大きな一歩でした。

組合員事務局の証言より

社福も福祉系ワーカーズも驚くほどのスピードで強化され、事業としても組織としても大きく成長してきました。

しかしそのことで、組合員から生み出されたワーカーズであるにもかかわらず、組合員から社福の存在が遠くなるという課題が生まれました。2020年、社福の理事長を組合員から選出したことは、社福を組合員の手に引き寄せる大きなきつかけになったと感じています。

地域の中に地域福祉の担い手として活動する人、事業を頑張る人、様々な人々がひとつの地域をつくるように、組合員が関わられるようにしていく。組合員やワーカーズが一緒にいることで、地域福祉の運動（事業）がより強化されると考えています。

職員事務局の証言より

社福を設立したことで、グリーンコープの福祉の一員でしかなかったワーカーズが、名実ともに主体となり、権限と責任を手にする覚悟を感じました。思いと行動力で頑張ってきた個々のワーカーの待遇面も、自分たちで決めることにより改善が見込めると思いました。

社福顧問の証言より

社福の理事長は2019年まで職員が担っていました。しかし、当時理事長を担っていた職員は、社福の理事長も本来、組合員が就くべきであると考え、当時のグリーンコープ生協ふくおかの理事長が選出され、2020年11月、理事長に就任しました。

社福は、これまでグリーンコープの組合員を通して地域と出会い、地域で必要なことを地域で考えて決定していくことを推進してきましたが、まだ十分にできていないと考えています。社福の各県ごとへの「分割」を徹底して実践し、グリーンコープ生協と共に地域に向かうことが、今後のあり方の基本となると考えます。

具体的な今後の進め方

社福の分割・分権については、組合員が生活す

る、活動する地域の近くに決定権を持つ人がいることが大切だと考えます。

社福は当初から、社福を各県で分権して所有し、実態としては各県で独立した社福のように運営していくことを目指していましたが、今後は各県の規模や実情に合わせて、各県ごとに分割することをグリーンコープ生協と一緒に目指していきます。

在宅生活支援事業はこれまで事業の推進に邁進してきましたが、ワーカーズ一人ひとりとつづいての生き甲斐につながったり、ワーカーとして活動してよかったと思えるように、事業を超えて視野を広げていくことが大事だと考えます。

組合員と社福が共に事業を進める関係を構築

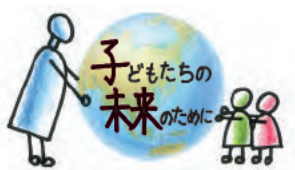
社福全体と組合員との関係については、ワーカーズの事業を組合員が手

伝うという連携ではなく、組合員が自らの夢や希望

を社福という器と実行力を活用しながら実現していくという関係です。さらに社福の未来を切り開くために組合員がワーカーズと共に事業を進める関係をつくっていきます。

グリーンコープ生協や社福の中心を担ってきた在宅生活支援事業の分野でも、体制の不足や、事業としての展開の難しさなどの課題があり、組合員と出会う学び合う必要性が意識されています。

組合員と社福と一緒に考え、一緒に決定して実行していく関係をつくるため、これまで共同体の委員会だった福祉委員会は、社福に移管します。組合員の意見を直接、社福の中に生かしていきます。その第一歩として、社福自体も福祉委員会も様々なワーカーズや事業と出会い、交流して語り合い、豊かに実践していく社福にしていきたいと考えています。

脱原発をすすめるために
節電

「節電」と聞くと、多くの人は電気代の節約を思い浮かべます。しかし今、私たちに求められているのは、消費する電力の量だけでなく「使う時間」を見直すことかもしれません。太陽光発電が普及し、再生可能エネルギーが広がった現在、発電量は夕方から夜にかけて減り、日中に増えるという特徴があります。こうした再生可能エネルギーは、朝や夜に集中する洗濯機や食洗機といった家電製品の使用を昼間に移すことで有効に活用できます。このような一人ひとりの行動が、原発や火力発電への依存を減らす一歩につながります。

加えて、夜の活動を減らし、睡眠時間を確保することは、心身の健康にもつながり、日中の生産性やモチベーションも向上します。

節電を単なる「我慢」や「節約」ではなく、自分自身の健康維持、そして「脱原発への主体的な一手」と捉え直してみませんか。

一人ひとりの健やかな暮らしの選択が、持続可能な未来を開く鍵となります。

グリーンコープ共同体組織委員会

2026年度活動方針

地球の温暖化・気候危機が地球と地球上の全ての生命(いのち)を脅かしています。グリーンコープは設立の時から、「自然と人との共生」「みどりの地球をみどりのままで」の理念と願いの実現に向けて、環境を守る取り組みに行動してきました。グリーンコープ運動を続けてきた私たちは、歩みを止めることなく、私たちにできることをさらに豊かに、大きくして、みどりの地球をみどりのままで子どもたちに手渡す「未来」を創造できるように、地球と環境を守る取り組みを推進します。そして、「平和」「食べもの」「地域福祉」「環境・農業」の取り組みをさらに前進させていきます。グリーンコープはこれから、新しい時代に入ります。新しい時代への飛躍に向けて、培ってきた力を総合的・一体的に結集して、伴う様々な課題を克服し、私たちが願う社会の実現に取り組みます。

2026年度活動方針

地球の温暖化・気候危機が地球と地球上の全ての生命(いのち)を脅かしています。グリーンコープは設立の時から、「自然と人との共生」「みどりの地球をみどりのままで」の理念と願いの実現に向けて、環境を守る取り組みに行動してきました。グリーンコープ運動を続けてきた私たちは、歩みを止めることなく、私たちにできることをさらに豊かに、大きくして、みどりの地球をみどりのままで子どもたちに手渡す「未来」を創造できるように、地球と環境を守る取り組みを推進します。そして、「平和」「食べもの」「地域福祉」「環境・農業」の取り組みをさらに前進させていきます。グリーンコープはこれから、新しい時代に入ります。新しい時代への飛躍に向けて、培ってきた力を総合的・一体的に結集して、伴う様々な課題を克服し、私たちが願う社会の実現に取り組みます。

- 一、組合員・グリーンコープ運動の仲間を増やします。
- 二、労働協同組合・ワーカーズを組合員と連帯するグリーンコープの主体と位置付け、労働協同組合のワーカーを増やします。
- 三、脱原発社会の実現を目指し、私たちに出来る実践を最大限に取り組みます。
- 四、生命(いのち)を守り育む「食べもの」を食べて、安心・安全な「食べもの」を守り、より良く育てていきます。
- 五、第二地域(生協地域、連帯地域、協同地域、共生地域)を創り、地域を再生します。
- 六、四つの共生の願いに基づく取り組みをすすめます。
- 七、グリーンコープ生協(グリーンコープ連合会とグリーンコープ生協)の経営を一層強化します。

- 八、各委員会の方針は次の通りです。
- (一)グリーンコープ共同体組織委員会
- (1) せっけんについて年間をとおして取り組んでいきます。
- (2) 環境問題について考え、単協の活動を支えていきます。
- (3) 脱原発の取り組みについて深め、単協の活動を支えていきます。
- (4) 平和の取り組みについて単協の活動を支えていきます。
- (5) アジアとの連帯の取り組みについて単協の活動を支えていきます。
- (6) これらの取り組みに役立つように学習会を開催します。
- (二)社会福祉法人グリーンコープ福祉委員会
- (1) グリーンコープの福祉を自ら語るこ
- (2) 単協の地域福祉の取り組みがより活性化していくために情報や課題を共有し、相談・協議します。
- (3) 地域福祉の取り組みを豊かにしていくために視察研修・学習会を行います。

退任の挨拶

私はおおいたの素晴らしい仲間とともに、大好きな活動を全力で楽しむことをエネルギーにし、たくさんの運動を地域に広げ事業につなげてきました。例えば、学校給食の有機化とパンの国産小麦化の実現、シャボン玉フォーラムinおおいたの成功、4つの居場所立ち上げや2つのセンターで買い物支援カーをかたちにしました。退任後のステージは、ワーカーです。違う景色のなかで自分を活かしていきます。みなさんと心をひとつにして、グリーンコープを盛り上げていきたいです。



グリーンコープ生協
おおいた
前理事長
薬師寺 ひろみさん

グリーンコープ生協ひろしま
理事長
前津宗 八州恵

私が応援しているグループが、デビュー当初から夢に掲げていたドーム公演を開催することが決まりました。長く追いつけてきた夢がついに実現する瞬間に、ひとりのファンとして少しでも関わることが誇らしく、まるで自分自身の夢が叶ったような喜びを感じています。

グリーンコープの活動でも、「夢ヲかたちに!」をテーマに、各単協で理事会が開かれています。「居場所をつくりたい」「こんなお店があったらいいな」など、組合員のさまざまな夢が語られ、それをどう実現していくかが丁寧に検討されています。私にできることは大きくないかもしれませんが、誰かの夢がかたちになる力になれるよう、これからも全力で応援していきたいです。

共同体第九期定時社員総会スローガン

組合員の願いを実現していく存在として生き続けていくために、「グリーンコープ運動」を力強く推進し、「グリーンコープ運動」に参加する仲間を増やしていきたいでしょう。

全国各地で発生している自然災害で被災された方々に向けて、生命(いのち)に寄り添ったグリーンコープらしい支援活動を継続していきましょう。

社会福祉法人グリーンコープの組織再編の具体化をすすめる、ワーカーズと組合員とで、人と人が共生・連帯する地域福祉を創っていきましょう。

原発、遺伝子操作などの社会的な問題に、生命(いのち)を根幹にすえて、市民とその連帯が主体となって、できることから解決していきましょう。

民衆交易や互恵のためのアジア民衆基金などの取り組みをとおして連帯・交流すること、南と北「北と北」の共生・連帯をさらにすすめていきましょう。

みどりの地球をみどりのままで子どもたちに手渡す未来を創造できるように、環境を守る取り組みをさらに推進していきましょう。

投資・未来づくりに向けたひとつひとつのビジョンを実現していくために、組合員・ワーカーズ・職員事務局が、一丸となつて力を合わせて前進していきましょう。

共同体第九期定時社員総会で選任された役員				退任した役員
理事 日高 容子 共同体 代表理事 連合会 会長 共済連合会 会長	白壁 貴子 ワーカーズ・コレクティブ連合会 専務理事	前津宗 八州恵 ひろしま 理事長	横山 利恵 社福グリーンコープ 鹿児島理事会理事長	退任理事 篠原 佳奈子 おおさか
西岡 寛 共同体 専務理事 ふくおか 専務理事	池野 健治 共済連合会 専務理事	永田 知子 さが 理事長	芝 ひろみ ワーカーズ・コレクティブ連合会 生協ワーカーズ委員会・ 共済ワーカーズ委員会 委員長	薬師寺 ひろみ おおいた
片岡 宏明 連合会 専務理事	小笠原 好人 グリーンコープでんき 専務理事	石原 久美子 (長崎) 理事長	中野 淳子 ワーカーズ・コレクティブ連合会 福祉ワーカーズ委員会 委員長	上川畑 由美 共同体 組織委員会
西村 大輔 連合会 常務理事	押山 靖子 ふくしま 理事長	川口 香代子 みやざき 理事長	神保 薫 共同体 組織委員会委員長	加納 厚子 ワーカーズ・コレクティブ 連合会
大谷 昌己 連合会 常務理事	谷澤 孝子 しがまる 理事長	小林 香織 社福グリーンコープ 社福グリーンコープ 熊本理事会理事長	大森 優子 社福グリーンコープ 福祉委員会委員長	水摩 静香 ワーカーズ・コレクティブ 連合会
河嶋 敏秀 連合会 常務理事	辻中 仁美 おおさか 理事長	三堀 明人 社福グリーンコープ 専務理事	監事 馬場 未菜 くまもと	退任監事 野口 輝子 ひょうご
本田 慎一 連合会 常務理事	田内 理恵 ひょうご 理事長	和田 恵子 社福グリーンコープ 専務理事	古賀 有樹 みやざき	旭林 久美子 (島根)
観音 大吾郎 連合会 常務理事	安場 美須寿 おかやま 理事長	松本 あいら 社福グリーンコープ やまぐち理事会理事長	村上 真矢 ふくおか	中島 純一 (長崎)
鹿毛 優子 共同体 組合員事務局局長 連合会 組合員事務局局長	中村 絵里佳 とっとり 理事長	坂本 寛子 社福グリーンコープ 福岡理事会理事長	大西 由香 おおいた	
井上 潔子 ワーカーズ・コレクティブ連合会 会長	中本 千帆子 (島根) 理事長	山下 めぐみ 社福グリーンコープ おおいた地域福祉理事会理事長	村田 勉 ひろしま	

生協名は一部省略しました



グリーンコープの

離

乳

食

BabyGreen

誕生から2周年!



グリーンコープの離乳食・幼児食「大地からのおくりものBabyGreen」は、組合員が「こんな離乳食を食べさせたい」という想いをもち寄り、商品開発に取り組んで誕生しました。2024年8月に登場し、多くの組合員に愛されて、2周年を迎えます。

今号では、産直野菜をバランスよく配合した、グリーンコープオリジナルの産直野菜 de まるっとキューブシリーズを紹介いたします。

BabyGreenについて詳しくはこちらから



産直野菜 de まるっとキューブ

産直野菜をベースにした、電子レンジなどで手軽に調理できるペーストです。離乳食初期(5ヵ月頃)から使えます。冷凍キューブだから、食べる量に合わせて利用できます。



病気の時や介護食にも便利!

簡単&時短!

レンジ調理ですぐに食べさせることができます。冷凍だから、ストックしておけば、いつでも簡単。

産直野菜を使用!

農薬不使用や農薬低減の、安心・安全なグリーンコープの産直野菜。

食品添加物不使用!

保存料・着色料・アミノ酸系調味料などを使用していません。野菜本来のおいしさが生きています。

赤・白・黄緑のバリエーション!



産直野菜 de まるっとキューブ 赤

140g (約12g×12個入)

一つのキューブに約9gの野菜を使用

フレッシュなトマトをじっくり煮込んでいます。にんじん・玉ねぎ・さつまいも・りんごを、酸味が苦手な赤ちゃんでも食べやすい配合バランスにこだわってブレンドしました。乾燥しいたけの戻し汁がベースになっています。



産直野菜 de まるっとキューブ 白

140g (約12g×12個入)

一つのキューブに約5gの野菜と約1.5gの魚を使用

たんぱく質豊富な食塩不使用の釜揚げしらすとクセの少ないすけとうたら、さらに食べやすいようにさつまいも・じゃがいもなどの産直野菜を合わせています。鉄分や亜鉛、カルシウムを摂ることができます。お魚デビューにぴったりです。



産直野菜 de まるっとキューブ 黄緑

140g (約12g×12個入)

一つのキューブに約8gの野菜を使用

にんじんやかぼちゃなど赤ちゃんが好む甘みのある野菜と、栄養価の高い小松菜をブレンドし、おいしくて栄養が摂れる配合にしました。緑色の野菜が苦手な赤ちゃんにもおすすめです。



※写真はイメージです。

利用している組合員に聞きました!

帰省してくる孫のために、冷凍庫にストックしています。冷凍なので保存がきくし、突然来ても使いたい分だけすぐにレンジで解凍できて便利です。孫はどの味も大好きで、口を開けて待っています。グリーンコープ生協ふくおか組合員 Mさん



チャックシール袋入りだから、最初にキューブをトレーからはずしてバラバラにしておけば取り出しやすいですよ!

使い方いろいろ♪

産直野菜 de まるっとキューブ 簡単アレンジレシピ

9~11ヵ月(後期) 黄緑

黄緑キューブとご飯のおやき

材料 黄緑キューブ……3個
軟飯………大さじ5

作り方

①黄緑キューブは電子レンジ600w40秒で解凍しておく。

②ボウルに材料を入れて混ぜる。

③②を5等分にしてフライパンに入れ、軽く焼き目がつくまで両面を焼く。



取り分け(大人・中期~) 赤

家族みんなのおかずにもなる! 濃厚トマトスープ

大人2人分+離乳食1人分

材料 赤キューブ………1パック(12個)

トマトジュース(食塩無添加)……1本(190g)

(離乳食用)お湯または野菜だし……大さじ1~2

(大人用)コンソメ・塩………適量

作り方

①鍋に凍ったままのキューブとトマトジュースを入れて火にかける。ひと煮立ちしたら、弱火で2~3分加熱する。

②離乳食用の分を器に取り分け、お湯または野菜だしで濃さを調整して完成。

(取り分け目安量: 中期 大さじ2、後期 大さじ3、完了期 大さじ4~6)

③大人用には、鍋のスープにコンソメ・塩を加え、ひと煮立ちさせる。

※中期: 生後7~8ヵ月頃、後期: 生後9~11ヵ月頃、完了期: 生後12~18ヵ月頃

2026年5月のみんなのアクション

地球の未来を守るのは
あなたの1アクションから!



2027
カーボンニュートラル

2027年までにCO₂排出0へ
国産のものを食べる、容器などを返す。こんな簡単な1アクションが、地球を守る大きなアクションになります。

地球温暖化ストップのためにグリーンコープが拠出します

1pocoにつき5円、リユースびんの利用1本につき5円、モールドバック利用1パックにつき5円、リサイクルされるトレーなど1kgにつき5円

poco 国産のものを食べる

2026年5月の実績

6,638,898.9

poco

1pocoは100gのCO₂削減に相当

CO₂削減量 664トン

33,194,495円

2026年5月の実績

びんの利用数

牛乳びん リユースびん

435,521本 204,280本

CO₂削減量 46トン

モールドバック利用数

モールドバック

735,961パック

CO₂削減量 73トン

CO₂削減の取り組み

EV車導入 マングロ植林 ドライアイス削減

詳しくは!



+

リサイクル回収量

トレー 仕分け袋 カタログ

6,145kg 5,347kg 292,340kg

CO₂削減量 73トン

+

削減できたCO₂

約783トン

CO₂を783トン吸収するためには、杉の木約55,909本が必要です

リユース・リサイクルデータ

2026年5月分(回収率)

牛乳びん 回収率 92.0%	リユースびん 回収率 76.6%
トレー 回収率 60.3%	モールドバック 回収率 79.4%
仕分け袋 回収率 24.9%	カタログ 回収率 67.5%

私のpocoを確認しよう!

グリーンコープアプリをダウンロードして、ホーム画面の元氣くんをタップ!

アプリのダウンロードはストアからグリーンコープで検索

App Store からダウンロード Google Play で手に入れよう
動作可能バージョン: 12~17.2 推奨バージョン: 14 動作可能バージョン: 7~15